

「ものづくり」をいかした まち歩き観光

〈東京スカイツリー® 開業で注目を浴びる墨田区の観光振興〉

江戸時代より職人のまちとして、また戦前・戦後は工場街として日本の産業を支えてきた墨田区。東京スカイツリー® 開業で多くの観光客が区を訪れる中、墨田区では、そうしたすぐれた職人の技術や、ものづくりのまち® という区の特徴を観光にいかそうとさまざまな取組を行い、地域活性化を図ります。



5月に開業した東京スカイツリーには、連日区外から多くの観光客が訪れている。写真は柳島歩道橋から望む東京スカイツリー

東京スカイツリー® 開業で増える観光客

墨田区は、相撲、隅田川の花火、墨堤の桜、葛飾北斎ゆかりの地など江戸時代からの歴史や文化がいまも根付いている地域です。

昨年5月には、地上634メートル、世界一の高さを誇る自立式電波塔である東京スカイツリーが開業し、これまでも増してさらに多くの観光客が区を訪れるようになりました。東京スカイツリーの展望デッキからは東京の大パノラマを一望でき、レストランやカフェ、オフィシャルショップも充実しています。また、タワーの足元には、個性豊かな312の専門店が集まった商業施設、東京ソラマチが隣接しています。現在東京スカイツリーには、連日、大型観光バスが発着し、開業から半年で約328万人、東京ソラマチを含む東京スカイツリータウン全体で約2792万人の人が訪れており、当初の想定を大きく上回っています。区では、来場者に墨田区の歴史や産業、文化等の魅力を伝え、区内を広く観光してもらうために、東京ソラマチ内に「産業観光プラザ すみだ まち処」を開設しました。まち歩きルートを紹介した

墨田区のセールスポイント
“すみだのものづくり”をアピール



産業観光プラザ すみだ まち処

墨田区では、東京スカイツリーの開業と同時に、東京スカイツリータウン・東京ソラマチ内に「産業観光プラザ すみだまち処」を開設した。観光案内カウンターで情報を提供したり、区の基幹産業であるものづくりの紹介や区内製品の展示即売を通じて、観光・産業のPRを積極的に展開している。“すみだのまちあるき”“すみだのものづくり”“すみだの特産”

“すみだの歳時”の4つのゾーンに分け、テーマごとに展示・販売し、墨田区の魅力を伝えているほか、職人による実演も行われている。また、職人の技がいかされた、すみだらしい商品を「すみだモダン」として認証し販売している

り、区の特徴でもあるものづくりをアピールすることで、観光振興と産業振興を兼ね備えた場となっています。さらに墨田区観光協会では、東京スカイツリーの展望デッキ入場券と、大相撲や新日本フィルハーモニー交響楽団のコンサート等の区内の観光資源とをセットにした「すみだ観光チケット」を販売するなど、東京スカイツリーの開業を契機に、区をあげてさまざまな取組を行っています。



東京スカイツリーに対する各方面からの関心と注目が高まる中、区では開業に合わせて「区民祝賀イベント」を開業直前の5月19日(土)・20日(日)の2日間にわたって開催、のべ34万2000人が来場した

東京スカイツリー® だけではない区の魅力

墨田区には、東京スカイツリー以外にも魅力あふれる場所がたくさんあります。区内には、古くから伝わる伝統工芸や食文化がいまも多く残っています。

隅田川の花火や回向院境内で行われた相撲など江戸随一のにぎわいを見せた両国・本所周辺、由緒ある寺社や花街があり、文人墨客に愛されてきた向島周辺、戦前からの民家や工房、下町情緒あふれる商店街が残る八広・京島周辺など、歴史や文化を感じる地域が多くあるのも墨田区ならではです。

日本ものづくりを支えてきた
まちとしての取組

江戸時代、1657年の明暦の大火で多くの人が江戸市中から逃げられず、10万人もの命が奪われたといわれ、それがきっかけとなり隅田川に両国橋が架けられました。以来、武蔵国と下総国を結ぶ唯一の橋としてたくさんの人々が往来し、本所が開拓され、江戸屋敷が栄えました。

そうした背景から、この地域には昔からたくさん職人たちが暮らしていました。以降、明治、大正、昭和と続く時代には町工場がさまざまな製品を生み出し、日本の暮らしを支えてきました。現在区内では、従業員数が9人以下の事業所が8割を超え、その多くが小規模な工場です。同時に、区内に住み区内で働く人が多いことから、区が産業振興に力を入れるということは区民の生活向上に寄与できると考えられます。

墨田区には、江戸切子や江戸指物、江戸木目込人形など、江戸時代からの伝統を受け継ぎ、職人の技がいかされた工芸品がたくさんあります。東京ス



日本の夏の風物詩、隅田川花火大会



大相撲のまちを象徴する両国国技館



大勢の観光客でにぎわう春の墨堤

カイツリー開業を契機に、区ではそうした「ものづくりのまち」として区内外に広くアピールするために、平成21年度から「すみだ地域ブランド戦略」を実施しています。

中でも特徴的な取組が、「あたらしくある。なつかしくある。」をコンセプトに、伝統に裏付けられたすぐれた技術とデザイン力に支えられた製品の数々を区のブランド「すみだモダン」として認証する事業です。これまでの製品と食品に加え、昨年度から飲食店メニューの認証も加わりました。これは、その店を訪れないと食べられない

「すみだモダン2012」のPR
用メインビジュアルを作成し、
ブランド展開している



い・買うことができないうすみだの味を認証することによって、区のまち歩き観光を促進する一面もあります。2012年は商品部門では84件の応募があり18の商品が、飲食店メニュー部門では34件の応募から8メニューが認証されました。選ばれたおもな製品は東京ソラマチ内の「産業観光プラザすみだ まち処」で目にするようになります。

すみだモダンに認証された商品はメディア等を通じて広くPRを行ったり、国際的な展示会への出展など優先的な取り扱いがされていることもあり、最近では大手百貨店バイヤーなどから催事の依頼や雑誌掲載等も増えており、販路拡大につながっています。

「すみだ地域ブランド戦略」事業としてほかにも、区内事業者と日本を代表

するクリエイターとのマッチングにより新商品開発の機会をもつことをサポートする「ものづくりコラボレーション事業」が行われており、「感性の高いクリエイターとコラボレーションすることにより、それまでになかった新たな発見があったり、いい刺激になった」という声が事業者から上がっています。

また、これまで製品の部品製造をしていた事業者が、この取組により自社製品を開発し、個人消費者向けの商品づくりのきっかけとなったケースもあります。

さらに区では、工場見学や工房体験など、ものづくりを体感するイベントとして、「スミファ」(すみだファクトリーめぐり)を実施し、すみだのものづくりを広くPRしています。



「する、みる、ふれる。あらま、と驚く3日間。」
をキャッチフレーズに実施したイベント「スミファ」(すみだファクトリーめぐり)

ものづくりを 観光にいかす

現在、東京スカイツリー及び東京ソラマチには、連日多くの観光客が訪れています。地域への回遊は必ずしも十分とはいええず、区内全域への経済波及効果が実感できる状況ではありません。「東京スカイツリー建設中のほうが地元の人が来ていた」という地域の声も上がっており、東京スカイツリーに集中する観光客に、地元や周辺地域を回遊してもらおうことが喫緊の課題となっています。

そうした中、墨田区ではこれまで東京スカイツリー開業に向けて、観光舟運事業の検討と船着場の整備、循環パスの導入など、まち歩き観光推進のための回遊性向上をめざし、観光の受け皿づくりを進めてきました。加えて、増大する観光需要を見据え、平成21年にはこれまで任意団体だった墨田区文化観光協会を再構築し、区の観光事業のけん引役となる墨田区観光協会を一般社団法人として設立しました。

また、墨田区の特徴であるものづくりを観光にいかすことに力を入れています。区内に点在する工房ショップをまわったり、ものづくり体験をしても

日本のものづくりを支えてきたすみだで、子どもたちが職人の仕事を体験できる「墨田で職人体験!! アウトオブキッズニア in すみだ」。昨年8月より受け入れを開始して、11月末までに500人以上の子どもが体験した



「3M運動」などの産業観光のために、職人は平日の本業以外に観光客の多い土日にも対応している

らうことでまちを回遊し、観光と産業両面から地域活性化をめざしています。墨田区では、昭和60年より区の産業PRとイメージアップ、地域活性化を図る事業として、「小さな博物館 (Museum)」「マイスター (Meister)」「工房ショップ (Manufacturing shop)」の3つの頭文字Mをとって「3M運

墨田区と観光協会が発行しているガイドブック「東京スカイツリー周辺をもっと楽しむ すみだ観光まる得ブック」。クーポンを付けて、区内飲食店で使用してもらうことで地域活性化をサポートしている



墨田区
中野区
品川区
文京区
千代田区
江東区
杉並区
目黒区
台東区
中央区
足立区
豊島区

動」を開始しました。

区内には、すみだの「産業」や「文化」に関するコレクションを工場や工房の一部を利用して展示している「小さな博物館」や、工場と店舗が一体化した工房ショップが点在しています。工房ショップではオリジナルの商品がつくられ、作り手が自らの手で消費者に販売しているため、消費者にはものづくりの現場を自らの目で確認し、オーダーメイドできるというメリットがあります。

訪れた人がものづくりを体験できる場や、職人の技がいかにされたすぐれた製品を目にすることができるといった工場や博物館を区はガイドマップで紹介し、産業観光の振興を図っています。今年度からは子どもがものづくりを体験できる取組「墨田で職人体験!!アウトオブキッズニアすみだ」を開始しました。これは、子どもたちが職人の技に触れられる職業体験プログラムで、

職人の指導のもとで江戸切子で小鉢をつくったり、金属加工でミニチュアのタワーを作ったり、革を使ってオリジナルのかばんや財布を作成できます。子どもたちからは、「火花が散ってびっくりしたけれど面白かった」「難しかったけど、完成してうれしい」「仕事は苦労することと楽しいことの両方あるからやりがいがあるとわかった」などの感想が寄せられ、受け入れる職人側からも「子どもへの対応など、スタッフが育ったのがよかった」という声が上がっています。この取組は、子どもたちにもものづくりの工程だけでなく、職人としての心構えや職人という職業を伝えることで、子どもたちの社会性を育てることも期待されています。

それ以外にも、区内の商店街連合会や墨田区観光協会でも回遊性の高いイベントの実施や各種ガイドブックを発行するなど、まちを歩いてもらうための試みを行っています。

東京スカイツリー®をいかした国際観光都市づくりへ

東京スカイツリーの集客効果をいかし区内への回遊につなげるために、区では東京スカイツリーを結節点とする3ルートの区内循環バスを導入するなど、回遊性を高めています。

また、新たな区内回遊の試みとして、区の貴重な資源である縦横に流れる内河川をいかした観光舟運事業も進められています。

東京スカイツリーの足元を流れる北十間川を親水空間として整備するとともに、平成24年度には、平成25年度の本格実施に向け、おしなり公園船着場も整備しました。さらに、同船着場等を活用して、江東内部河川でつながる江東区と連携して、民間事業者から事業提案を募る公募型観光舟運の社会実験を8月から11月にかけて実施しました。来年度以降はおしなり公園船着場及び吾妻橋防災船着場等計5カ所の船着

場が一般開放され、正式に民間事業者等の観光船が運航されることになる予定です。将来的に台東区・中央区・江東区などの周辺区と連携して舟運の範囲を広げることは、両国や向島、錦糸町といった区内拠点めぐりだけでなく周辺地域への広域的なまち歩き観光にもつながることが考えられます。

東京スカイツリーからほんの少し足をのばすだけで、下町情緒漂うエリアや伝統を感じさせる工房ショップなどが広がっています。今後、観光客は国内だけでなく海外からの訪問者も期待されるため、東京スカイツリーの集客効果と区内の観光資源を上手にいかした、国際観光都市としての取組が期待されています。

船上から見る東京スカイツリーも舟運ならではの楽しみのひとつとなる



吾妻橋防災船着場を活用した舟運社会実験の様子。来年度以降、民間事業者などによる観光船が運航される予定になっている

